

# 「主の恵みに感謝し、宣教・礼拝・成長・一致を保つ使命に生きる教会」

## Ⅱペテロ3：18

堀田修一 25・3・16

本日、礼拝後に定期総会が行われます。今年度の聖句から説教を致します。

2025年度の目標聖句

「私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい」

Ⅱペテロ3：18

年度目標 「主の恵みに感謝し、宣教・礼拝・成長・一致を保つ使命に生きる教会」

### 1. この目標聖句と年度目標を選ばせていただいた理由

2025年度は、教会創立60周年の年です。60年間、当教会が霊的な軸とされ、目標とされてきた内容を、この目標案に、まとめました。そして、この霊的な目標は、まさに、聖書が教える真理であり、60周年も、その後も、この目標は、聖書が教える、いつの時代にも通じる目標と確信するからです。

### 2. 「私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい」Ⅱペテロ3：18

①「主の恵みに感謝し」。Ⅱペテロ3：18に「キリストの恵みと知識（恵みを心で知る）において成長しなさい」とあります。常に聖書は、人間の力、業績、頑張りではなく、先行的主の恵みを味わい知り続けることによる感謝から生まれる信仰生活を勧めています。「私たちはただ神の憐みの負債者」との感謝

「味わい 見つめよ。主がいつくしみ深い方であることを」詩篇34：8。「神よ 私たちはあなたの宮の中で あなたの恵みを思いました」48：9。「主が良くしてくださったこと（恵み）を何一つ忘れるな」103：2。「あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです」エペソ2：4, 5。「キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい」Ⅱテモテ2：1

罪の自覚が増す時に恵みへの感謝が増す。「私はその罪人のかしらです（パウロは晩年になるほど自分の罪を自覚した）。しかし、私はあわれみを受けました。それはキリスト・イエスがこの上ない寛容を私に示し、ご自分を信じて永遠のいのちを得ることになる人々の先例（見本）にするためでした」Ⅰテモテ1：15, 16。「罪の（自覚の）増し加わるところに、恵みも満ち溢れました」ローマ5：20

Ⅱペテロ3：18に、「キリストの恵みと知識において成長しなさいとあります」。罪の自覚と主の恵みを深く理解することなしに、個人的にも教会全体としても健全な成長はありません。数えきれない罪の赦しと永遠のいのちという主の恵みへの感謝のない信仰生活は、喜びのない律法主義、義務感からだけの奉仕となります。しかし、滅んで当然の自分への主の恵みへの感謝から生まれる伝道、宣教、礼拝、献金、奉仕は、健全な成長につながり、神の栄光を現す証し、宣教となります。※HBI時代の証し。宝の教え。

②主の恵みを受け続ける私たちと教会の使命は、主の救いを伝える「宣教」です。「あなたがたは（救いに）選ばれた種族、王である祭司（世の人々を神のもとに導く）、聖なる国民、神のものとされた民（「自分の宝の民とされた」申命記14：2）です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光（救いの光）に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです」Ⅰペテロ2：9。私たちに、誰も福音を伝えてくれる人がいなければ、私たちは、主の救いの恵みを聞くことなく、主を信じることなく人生を閉じていたことでしょう。しかし、神は私たちを愛し、主の救いの福音を私たちに伝える人を遣わして下さったのです。感謝します！今度は私たちの番です。祈りつつ私たちに出来る分で、祈りつつ愛を示しましょう。※「宣教」も主の恵みの先行が必要です。主の恵みへの感謝がない宣教は、喜びのない義務感からの伝道となり、実を結びません。深い体験の証し「私にとって神のみそばにすることが、幸せです（恵みです）。わたしは 神であるあなたを私の避け所とし、あなたのすべてのみわざを語り告げます」詩篇73：28。喜びのない伝道牧会から主の恵みから生まれる伝道牧会へ。※ある方の言葉。

③主の恵みを知り続ける教会の使命は、神が喜ばれる「礼拝」です。ローマ人への手紙の1から11章までは、三位一体の神の救いの恵みが記され、その恵みが先行し最初の応答として語られるのが、12：1→「ですから（神の溢れる恵みをいただいているのですから）、…私は神のあわれみによって、あなたがたにお勧めします。あなたがたのからだ（心も体も。教会の礼拝に心も体も神に献げるために参加する）を、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です」私たちは、神を礼拝するために造られ、神を礼拝するために救われたのです。神は、私たちが神の恵み、神の愛、恵み、救いを感謝し、神を礼拝することを最も喜ばれます。一致した礼拝は、宣教です。

④主の恵みを受け続ける教会の使命は「成長」です。先行的主の恵みは私たちを成長させます。この成長とは、主を信じる人、教会を共に建て上げる人が加えられる恵みと私たち一人一人が、いのちのみことば、御聖霊、日常生活の中での神の愛の訓練により、主の御姿に変えられ続ける事、御霊の実（愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制）を結び続ける事を意味します。「キリストの恵みと知識（主に「ついて」ではなく、主ご自身を深く知り続ける知識）において成長しなさい」Ⅰペテロ3：18。「心（心、考え方、物事のとらえ方）を新たに（みことばと御聖霊により新たにさせ続けていただく）ことで、自分を変えていただきなさい（主の御姿に変えられ続けなさい）」ローマ12：2。

⑤主の恵みを受け続ける教会の使命は、主にある御霊の「一致を保つ」ことです。エペソ人への手紙で1から3章まで三位一体の神の溢れる恵みが記され、その恵みへの応答として、「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい→「父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです」ヨハネ17：21。1992年4月29日、横浜で主の摂理のうちに「日本福音キリスト教会連合」（略称：JECA）が設立した。設立した理念＝四者は「教会は、キリストをかしらとするからだとして一つである。この祝福された事実は地上のいとなみの中で告白され、証言されなけ

ればならない」。主にある一致が保たれるときに主を信じる人、教会に加わる人が神により起こされる。47年の実体験です。御霊による一致を熱心に「作りなさい」ではなく「保ちなさい」とある。御霊による一致は既に与えられている。しかし、教会は、完成された者の集まりではなく、主の姿に変えられる途上の罪人の集まりである。それ故に、お互いの高慢、憤り、短気、忍耐のなさ、争いで、主にある一致を壊し易いのです。主に頼り祈りましょう。「高慢な私に謙遜と柔和を与え続けて下さい。語るに遅く、聴く者、寄り添う者としてください。※証し。「静かに、さりげなく」。短気ではなく、気長で、寛容を示し、慌てず、判断力のない愛で干渉し過ぎることがないように。愛をもって互いに耐え忍び、先走りして自分勝手に判断せず、相手の気持ちと自分の気持ちを考慮し、神が熟成される時を待ち、自分も人も、自分で蒔いたものを自分で刈り取ることで反省し神の喜ばれることを学べるように。争いではなく、主の十字架の恵みで赦し合う平和（自分自身が主に数えきれない罪を赦され続けている恵みを決して忘れない時に他の人を赦す平和が生まれる）、平安を頂いて、一人一人神から個性が与えられ考え方の違いがある教会のお互いが、神のみが下さる絆で結ばれて主にある一致を保てますように。恵みとまことに満ちた主に心を支配していただき、互いに支配せず、支配もされず、主の恵みを受け互いに愛し合い、主への感謝と人への感謝も忘れず、宣教する教会を祈り求めつつ歩みましょ。

祈り：主の恵みに感謝し、宣教、礼拝、成長、一致を保つ教会として歩めますように！ 応答賛美  
229番